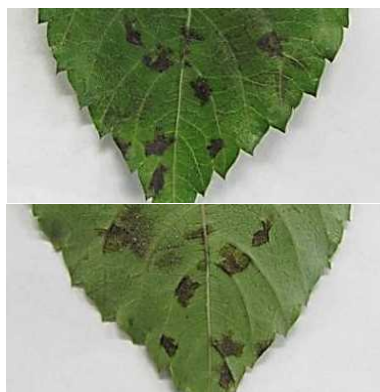


作物名：モロヘイヤ

病害虫名：黒星病（病原： *Cercospora corchori* ）



葉の病徴



病斑（上：表，下：裏）



黒星病菌の分生子

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・葉，茎，さく果※に発生する。
- ・葉では初め葉表に黒色の小斑点を生じ，のちに黒紫色で大きさ2～3mmの葉脈で区切られた多角形の病斑になる。病斑の裏面は表面に比較して色が濃く，褐色を呈する。多発すると葉は黄化し，落葉する。
- ・茎では，長さ約5mmの淡褐色～黒褐色で紡錘～不整形の病斑となる。
- ・さく果では，黒紫色で不整形の病斑となる。

※さく果：花の後につく長細い実で，成熟すると果皮が裂けて，種子を放出する。

2 伝染源及び伝染方法

- ・被害植物残渣上で越冬するし，翌年，分生子の飛散によって伝染する。
- ・本菌は種子に付着し，種子伝染する。

3 発病・伝染好適条件

- ・本菌は糸状菌の一種で，不完全菌類に属し，分生子を形成する。
- ・菌の培地上での発育適温は25℃前後である。
- ・降雨が連続すると発病が多くなる。

4 防除方法

- ・本病に対する登録薬剤はないので，罹病葉や残渣の処分等による耕種的防除を徹底する。
- ・雨よけをすると発病が少なくなる。

5 出典

(1) 参考文献：日本植物病害大辞典（全国農村教育協会）

(2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影